

F REPORT

筑紫女学園報

No. 96

2018 SEPTEMBER
2018年(平成30年)9月20日

Special Issue

中学
高校

【おたとしまさ氏×松尾圭子校長 特別対談】

女子校という選択

- 大学／留学生＆在校生インタビュー
- 幼稚園／新園舎建築中のご報告
- 決算報告
- 法海(こころに響くことば)
- 入試情報・公開講座・人事・寄付情報

その教育 しなやかで、ゆるぎない。
学校法人 筑紫女学園

<http://www.chikushi.ac.jp>

筑紫女学園



Special Issue

中学
高校

[おおたとしまさ氏×松尾圭子校長 特別対談]

女子校という選択

男女共同参画社会基本法が施行されて約20年、
日本社会はまだ女性が存分に活躍できる状況とはいえません。

そうした中、女子校の存在意義とは？

教育ジャーナリストのおおたとしまさ氏と

筑紫女学園中学校・高等学校の

松尾 圭子新校長の対談をお届けします。

「予測できない未来、答えのない問いに挑む力を」(松尾)

減少の一途をたどる女子校には、 自分探しをしやすい環境が

松尾 先ほどは、本校開催の「特別講演会」(P.4参照)にご登壇くださり、ありがとうございました。せっかくの機会ですので、さらに掘り下げたお話をお聞かせください。まず、女子校の状況ですが、福岡では来年、また1校が共学になると聞いています。全国的にも同じ傾向にあるのでしょうか。

おおた そうですね。関東では生徒集めに

苦慮し、イメージをリニューアルしたいがために共学化するケースが多いようですね。一方、海外においては、かねてから別学の研究が盛んで、その教育効果が認められてきました。アメリカでは一時期ゼロだった男女別学校(以下、別学校)が増えています。しかし、日本では逆の流れが止まりません。別学校がこれ以上減ると教育の多様性が失われてしまうので危惧しています。ただ、共学にしたものの、問題に気づき、男女別のクラスにする学校もみられるようになりました。

共学内別学は、今後の新たな動きとして増えるのではないかと考えています。

松尾 共学と別学、それぞれの良いところを取り入れた形ですね。では、生徒たちにとって別学校に通うメリットとはどのようなところだとお考えでしょうか。

おおた 日本の中学・高校では進学という大きなテーマのもと、学力によって人間の価値が測られるような部分があります。また、思春期だけに、異性からどう見られるかという価値観にも縛られやすいものです。しかし、別



松尾 圭子 (まつお・けいこ)

筑紫女学園中学校・高等学校校長。筑紫女学園高等学校から西南学院大学へ進み、教職へ。伝習館高等学校・筑紫丘高等学校で教鞭をとり、筑紫中央高等学校・筑紫高等学校・春日高等学校では教頭、福岡魁誠高等学校・筑紫丘高等学校では校長を務め、福岡県教育庁でも手腕を発揮。2015年から2年間、福岡県教育庁理事を経て2018年4月に現職へ。

学校では少なくとも異性の目によって自分の価値が規定・序列化されることによる影響を受けません。よって、一人の人間としての個性を認めることができ、未来に向けた自分探しが、とてもしやすい環境といえるでしょう。

答えがなくとも果敢に挑戦し、異質の人と結びつく力が必要に

松尾 未来といえば、これからは私たちが今まで経験したことのないようなことが次々

おおたとしまさ (おおた・としまさ)

育児・教育ジャーナリスト。1973年東京生まれ。麻布中学校・高等学校から東京外国語大学、上智大学へ進み、中学・高校の教員免許も取得。卒業後は株式会社リクルートに入社。2005年に独立し、現在は書籍執筆、各種メディアへの寄稿・出演、講演活動などを精力的に行っている。
【主な著書】「中学受験という選択」「女子校という選択」など多数。



現役教師や著名出身者の話を聞きながら女子校教育を解き明かす「女子校という選択」(日経プレミアシリーズ)

と起こってくる時代といわれています。だからこそ、自分で考えて対応できる力、答えがないことにも果敢に挑んでいく力と度胸、へこたれない精神を生徒たちに身につけてほしいと願っています。そういった素養を「生きる力」というのではないのでしょうか。

おおた おっしゃるとおり、これからは変化が激しく、経験則が役に立たない時代になるでしょう。とはいえ、歴史を振り返ると、経験則が役に立った時代はごく短いものですし、激動の明治維新を経験した人たちからすれば、

なんてことはない程度かもしれません。そもそも、「生きる力」という言葉が過大評価されているんです。グローバルレベルで勝ち組になるための力みたいに大きな意味で使われがちですが、みんな生きているんだから大丈夫。私は、それほど難しいことではないと思っています。もちろん、最低限度の知力と体力は必要ですし、それをどの程度とするかは進路によって幅があります。また、先ほどおっしゃった、へこたれない精神と通じるものとして、やりきる力も必要でしょう。

Special Issue

特 集

松尾 確かにそうかもしれません。では、他にどういふ力が必要だとお考えですか。

おおた これからの社会において、個人のレベルで解決できることはほとんどありません。よって、知力、体力に加え、自分にない才能を持っている人と協働することのできる力が必要になるでしょう。同質の人だけが集まっても何も解決できないので、異質の人と結びつく力が、社会で生き抜く上での決め手になってくるのではないかと思います。100%アグリーできる人なんていないのですから、他を拒まず、「そこは違うけど、ここは結ぼうか」と、チームを作れることが大切になってくるでしょう。

松尾 同感です。素晴らしい知識を持つ人がいて、それを「こういうものがあたらいいな」と思う人がいて、知識と技術が結びつくと、ものすごく世の中の役に立つものが生み出せると思います。文系と理系といった分野を越えて色々な人と話をしていると、ヒントがピン!とひらめいたりしますからね。

おおた そうそう、そうなんですよ。

一人ひとりの輝く未来を創る 筑女ならではのプログラム

松尾 本校では、そうした協働性や主体性、多様性など、21世紀において求められる真の学ぶ力、生きる力を育むために「創“MIRAI”プログラム」を展開しています。今までさまざまな取り組みを総点検して、それぞれ何の力を養うのに役立っているのか整理し、幹、枝、葉というような形として位置づけし、並べ替えたものです。そして、足りない部分は加え、不要と思われることは削ることに。個々の取り組みの意義を教員も生徒も理解した上で実践することが大切です、プログラムを再確認しながら、筑紫女学園としてブレないものにしていきたいと考えています。

おおた 私学では、建学の精神と照らし合わせることもされているのでしょうか。時代時代で学校も変わっていかねばならな



「女子校ならではのしなやかさが時代を変える光に」(おおた)



いといわれますが、それには危険もあると思います。確かに世の中の仕組みは変わっていますが、人間の本質は変わるものではありませんから。不易流行が重要です。筑女の取り組みは、まさに大樹のように、気候変動があろうとも、脈々と継承されてきたDNAによって、環境に適応していくということなのです。そうやって建学の精神を鍛え続けることにより、私学は強くなるんです。

女子校出身者には、社会の変え方を提案していく大きな役割も

松尾 同様に、守るべきところは守り、芯の通った生き方のできる女性として生徒たちを送り出したいと思っています。女性にとって社会にはまだ壁がありますが、幼い子どもを持つ部下とともに、文部官僚として男女共同参画社会基本法の施行に力を尽くされた赤松良子さんをはじめ、今の恵まれた社会への道ならしをしてくださった先輩方を思うと、

後進のために自分にできることをするのは使命だと感じます。そういうことも、これから生徒たちに伝えていきたいし、社会で豊かな感性を発揮し、困難にもしなやかに対応しながら前へ進んでいく生き方も身につけてほしいと思っています。

おおた そうなんです。男性の理屈でつくられてきた縦型の日本社会は今、硬直化していますが、それを男性的にスクラップ&ビルドで何とかしようとしても、また同じものになってしまう。そうではなく、もっとじわじわと溶かし、緩めていながら変えていかなければなりません。つまり、社会の変え方を変える必要があると思うんです。その時に、女性の共感力をベースにしたフラットな横型の組織の作り方が重要になってくるでしょう。そういう方法を知っている人を育てる環境が女子校にはあるんです。今後、女子校出身者は、社会の変え方を提案する役割を担っていくのではないのでしょうか。また、男手に頼らず、文化祭や体育祭をやり遂げてきた女子校出

Special Issue

特集

身者は、「男の役割」「女の役割」といったジェンダーの既成概念を打ち破ることができる上、高い共感力も持っているんです。

新大学入試改革の成否は、大人の意識改革が決め手に

松尾 ところで、2020年から始まる新大学入試制度では、ペーパーテストでは測れないものが評価の対象になっていますね。本校では、学びの履歴書、いわばポートフォリオを作るために、クラウド上のネットワークサービスを利用したり、プレゼンテーションするなど、色々なことを考えながら取り組んでいます。ただ、新制度はまだ紆余曲折の段階で、決まっていないことが多すぎるため、学校としては、右往左往しない度胸というか、そういうものが大事なように思います。

おおた そうですね。生徒たちもどれだけ腹をくくって自分の道を進むかが問われてくるのでしょうか。今後は入試の方法だけでなく、大学で学ぶことに対する意識や自分が進むべき進路の選び方も少しずつ変わっていくのではないのでしょうか。私は、大学を受験する当事者である生徒たちはもちろん、私たち大人がちゃんと意識を変えていけるかどうか、すぐそこに迫る大学入試改革の成否を決めるとしています。偏差値が高い大学や有名大学に行った方がいいのではないかという既存の考え方を見直し、「偏差値だけにこだ

わらなくていいよ」「そっちの道に行きたいんだったら、その大学がいいね」と言えなければいけないのではないのでしょうか。

松尾 調査書などの様式は色々変わりますので、そこはきちんと対応する準備を進めていますが、そもそも、日本の中で小さな競争をするのではなく、学びたいことがあれば海外の大学へ進むことも視野に入れてほしいですね。そういうことも含めて、大人が意識を変えなければいけないことを再認識することができました。教員が生徒たちに先回りして失敗させないようにするのではなく、共感ある人間関係がきちんと築かれた上で、失敗をチャンスに、そしてプラスに変える経験をさせる視点で生徒を見ることのできる学校でありたいと思います。

おおた 仏教をバックグラウンドとしている女子校は少なく、仏教の視点を持った筑女の卒業生たちが社会に与えるインパクトは、ものすごく大きくなる可能性を持っていると思います。「あなたたちは稀有な存在なんだよ」と生徒さんたちに伝えてあげてください。今日の対談をとおして、筑女生の皆さんへの期待がさらに高まりました。

松尾 色々お話しさせていただきましたが、最終的には、生徒たちが明るく、この学校に来て楽しいと思ってもらえる学校をつくっていきたいと思います。本日は、貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。

おおたとしまさ氏 講演会レポート

ジェンダーに捉われない
環境の中で育まれる
未来への、しなやかな力強さ



本校では今年8月4日(土)、小・中・高校生およびその保護者、教育関係者などを対象に、おおたとしまさ氏の特別講演会を主催しました。当日は学校紹介・見学会が行われていたため親子で聴講される方も多く、男女別学に関する興味深い研究の紹介やウイットに富んだ解説、受講者に問いを投げかけながらの進行に、皆さん引き込まれることに。「ジェンダーに捉われず社会を変えていく女性を目指す時、女子校はとてつもなく貴重な学びの場になる。女子校は“お嬢さん学校”と思われがちだが、そこで育まれるのは、しなやかな力強さです」とのお話に、認識を新たにされた方もいらっしゃったことでしょう。本校教員もまた、女子教育に邁進する勇気とエネルギーをいただきました。



グローバル化やIT化時代に対応するために 創“MIRAI”プログラム

劇的に変化を遂げる社会や新大学入試に対応し、自分らしく生きていくために「真の学ぶ力」を身につけるプログラムで、「キャリア教育」「グローバル教育」「女子教育」など体系的に整えて行っています。ここでは高校1年が行った取り組みの一部をご紹介します。



1. 新聞を使った自己紹介

自己紹介を形式的なものにせず、「自分とは価値観の違う相手を受け入れる」機会となるよう実施。新聞の中から選んだ興味のある3つの記事を使い、自分の関心のあることについて班のメンバーと説明し合いました。



2. 進路探求ガイダンス

新入生研修において、様々な大学のアドミッション・ポリシー(入学受け入れ方針)を分析するという活動を行いました。これとおして、大学や社会が求めている人間像について学び、高校3年間をどう過ごすかについて考えました。



3. グローバル講演会

事前学習を行ったうえで、甲木正子氏(西日本新聞社販売局企画開発部長)の経験に基づいたお話を伺いました。自分たちが生きている社会の現状や進歩の歴史、今後の課題について学び、事後の学習で解決策について考えました。



4. 進路講演会

4月に実施した適性診断の結果を受け取り、多くの経験の中で自分を発見していく必要性を確認しました。今後、興味ある学部学科を絞っていく参考にしていきます。

筑女大で交換留学生として1年間学んだ
黄佳倩さんとJSP*と呼ばれる
プログラムを3年連続で受講している
村山佳乃子さんにインタビューしました。



村山佳乃子さん
文学部英語学科3年生

黄佳倩さん
中国・上海杉連学院からの交換留学生

●黄さんが日本に留学しようと思ったきっかけは？

黄 外国語を勉強したいという理由から中国の大学では日本語を専攻しています。周りの友人たちは日本のドラマやアニメの影響で入学時から日本語を話すことが上手でした。そんな折、大学の先生から筑女への留学の話聞いて挑戦しようと思いました。

●日本と中国との違いはありますか？

黄 日本人は中国人と比べてシャイな部分もありますが、礼儀正しく親切です。日本で出会った友人や先生は、授業中の私へのフォローなど相手のことを考えた行動が多く、日本人の優しさを強く感じるようになりました。また、日本はルールに厳しいイメージがあります。その一つが時間であり、寮生活では食事の時間や門限が決

まっています。この経験を通してスケジュールリングや段取りなど時間を管理することが身につけてきました。

●JSPを受講するきっかけと学びについて教えてください。

村山 入学時から留学生と関わる機会が欲しいと思っていて、1年生の時にJSPに関する学内のチラシを見て参加してみようと思いました。JSPの授業の中で、留学生に対しては、普段の言葉遣いでは日本語が伝わらないため、正しい文法や発音を意識していました。また、アルバイト先など日常生活で外国の方との交流がある際にも、正しい日本語を使ったり、教えてあげたりとJSPの経験が生きています。

●お二人はこれからの将来をどのように描いていますか。

黄 日本語を勉強する中で、日本語の話し方や発音がすごくきれいに感じるようになり、より日本が好きになりました。交換留学期間が終わって、中国に帰ってからは大学院に行ってもっと日本語を勉強して、日本語を生かすことができる仕事に就くことが目標です。

村山 海外の人々に関わる仕事がしたいと思い、大学に入学しました。JSPの受講に加えて、2年生から副専攻で日本語教育も受講していく中で、さまざまな国の人と交流することができると日本語教師になることが目標になりました。

*JSP…主に海外の協定校から本学に留学した交換留学生が日本語と日本の文化・ビジネスを学ぶプログラム。

幼稚園は、これまでの46年間にたくさん子どもたちが巣立っていった園舎に別れを告げ、平成31年3月の竣工を目指して、現在新築工事が行われています。



新園舎建設中の
途中経過のご報告

新園舎は、全クラスから園庭を見渡せる旧園舎時代の良かったところを残し、2歳児教室も同じ園舎内で保育できるように2階建ての構造で、今までの園舎よりも大幅なボリュームアップが図られています。

また、今まで、屋根がないところにバスを停車させていたため、雨の日の乗降時には子どもたちが大変な思いをしていましたが、新園舎では濡れずに乗降できるよう屋根もつけられ、子どもたちにとってより居心地の良い環境を考えた設計となっています。

幼稚園の長年の夢であった建て替えがようやく実現し、形になるまであともう少しです。

工事の進捗状況については
ブログでも
お知らせしていますので、
ぜひご覧ください。





平成29年度 学校法人筑紫女学園決算について

1 資金収支計算書について

資金収支計算書は、当該会計年度の資金の流れおよび収入・支出のてん末を明らかにするものです。学生生徒等納付金収入から資金収入調整勘定までの資金収入は、総額95億5,252万円となり、これに対して人件費支出から資金支出調整勘定までの資金支出は、総額98億7,321万円で、資金収支差額は、3億2,069万円の支出超過となりました。この結果、翌年度繰越支払資金は、28億9,318万円となりました。

2 事業活動収支計算書について

事業活動収支計算書は、当該会計年度の「教育活動」、「教育活動以外の経常的な活動」および「前記2つの活動以外の活動」に分けて、収支の均衡の状態を明らかにします。企業では損益計算書に相当するものです。特に基本金組入前当年度収支差額は、当年度の経営状況を見る指標として重要なもので、マイナスが大きくなるほど経営が窮迫します。事業活動収入計は50億1,166万円で、事業活動支出計は53億3,553万円となり、その結果、基本金組入前当年度収支差額は3億2,388万円の支出超過となりました。なお、基本金組入額には、大学の第2号基本金の積立額3億5,000万円が含まれています。

3 貸借対照表について

平成29年度の貸借対照表は、平成30年3月31日現在の財政状態を示すものです。総資産は、235億2,117万円で前年度末と比較して4億1,385万円減少しております。学園の金融資産(現金預金および有価証券等)の残高は、前年度121億7,199万円から、平成29年度は121億4,659万円となり、2,540万円減少しております。一方負債総額は、29億2,028万円で前年度に比べ8,997万円減少しております。その結果、今年度末の純資産(資産総額－負債総額)は、206億89万円で、前年度末より3億2,388万円減少しております。また、基本金は227億5,579万円で、前年度に比べ、3億1,902万円の増加となっております。

1 資金収支計算書 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで (単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	3,747,587	人件費支出	3,484,305
手数料収入	63,002	教育研究経費支出	902,143
寄付金収入	48,380	管理経費支出	357,157
補助金収入	946,909	借入金等利息支出	300
資産売却収入	2,300,000	借入金等返済支出	13,500
受取利息・配当金収入	76,723	施設関係支出	87,293
雑収入	157,566	設備関係支出	114,271
借入金等収入	0	資産運用支出	4,730,863
前受金収入	327,998	その他の支出	418,945
その他の収入	2,348,131	[予備費]	
資金収入調整勘定	▲463,779	資金支出調整勘定	▲235,565
前年度繰越支払資金	3,213,874	翌年度繰越支払資金	2,893,179
収入の部合計	12,766,391	支出の部合計	12,766,391

2 事業活動収支計算書 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで (単位：千円)

科目		金額
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,747,587
	手数料	63,002
	寄付金	38,840
	経常費等補助金	944,502
	付随事業収入	0
	雑収入	102,233
	教育活動収入計	4,896,164
事業活動支出の部	人件費	3,532,937
	教育研究経費	1,310,543
	管理経費	433,207
	徴収不能額等	0
	教育活動支出計	5,276,687
教育活動収支差額	▲380,523	
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	76,723
	その他の教育活動外収入	0
	教育活動外収入計	76,723
教育活動外支出の部	借入金等利息	300
	その他の教育活動外支出	0
	教育活動外支出計	300
	教育活動外収支差額	76,423
経常収支差額	▲304,100	
事業活動収入の部	資産売却差額	0
	その他の特別収入	38,771
	特別収入計	38,771
事業活動支出の部	資産処分差額	58,017
	その他の特別支出	530
	特別支出計	58,547
	特別収支差額	▲19,776

科目	金額	科目	金額
(予備費)		(参考)	
基本金組入前当年度収支差額	▲323,876	事業活動収入計	5,011,658
基本金組入額合計	▲356,511	事業活動支出計	5,335,534
当年度収支差額	▲680,387		
前年度繰越収支差額	▲1,512,005		
基本金取崩額	37,493		
翌年度繰越収支差額	▲2,154,899		

3 貸借対照表 平成30年3月31日 (単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	20,495,357	固定負債	2,046,493
有形固定資産	11,115,780	流動負債	873,784
特定資産	9,244,414	負債の部合計	2,920,277
その他の固定資産	135,163	純資産の部	
流動資産	3,025,811	基本金	22,755,790
		第1号基本金	20,779,807
		第2号基本金	1,250,000
		第3号基本金	396,983
		第4号基本金	329,000
		繰越収支差額	▲2,154,899
		純資産の部合計	20,600,891
資産の部合計	23,521,168	負債および純資産の部合計	23,521,168

法海

ここに響くことば 20

浅い川は波をたて深い川は波をたてない

『スツタニパータ』という經典の中にある、釈尊の言葉です。もちろんこれは、波の物理的特性を説明しようとしたのではなく、人間の心のあり方を、川の波にたとえた言葉です。

「心が波立つ」という表現があります。他人と意見が合わず、言い争いをしたりすると、「心が穏やかでない」状態になります。また、思いもよらなかった困難に出会ったとき、「どうして自分だけがこんな目に合うんだろう」というようなこともあるかもしれません。このような心の状態は、私たちにとって「不愉快」なもので、落ち着かず、「ぎざぎざ」とした気分です。このような状態をまさに「心が波立つ」と言うのではないのでしょうか。

それでは、心が波立つ原因は何でしょう。よくよく考えてみると、自分にも多くの原因がある場合もあります。「心穏やかでない」とき、「自分は間違っていない、相手が悪い」という自己正当化しようとする心や他者を批判する心がないのでしょうか。また

「心が平静でない」とき、自分のミスや至らなさをそっこのけにして「腹を立て、怒っている」ことがあるのではないのでしょうか。

さらに、「どうして自分だけ」と愚痴だけに終始していても前には進めません。

そして釈尊は、「スツタニパータ」のこの言葉の後に、「愚者の心は浅く、賢者の心は深い」と説かれています。「心が波立つ」原因を他のものや他人のせいにした、愚痴ばかり言って、自分自身のあり方に気付かない人のことを「愚かで、心が浅い」といわれ、逆に常に自分自身を振り返り、自分の怒りの心や、愚痴の心が原因で「心が波立つ」ことに気付ける人が「賢く、心が深い」と説かれたのだと思います。

誰でも「心が波立つ」ことはあります。しかし、そのような時、一度立ち止まって自分の心を振り返ることができれば、心の波は大きくはならず、収まるのも早いのではないのでしょうか。

